

# 女性協議会が活動報告

## 一般職の業務区分の周知など提言

C S E

建設コンサルタント業界でも屈指の女性比率を誇る中央設計技術研究所(略称「CSE、金沢市」)の社内組織である女性協議会は、9月27日に開催された役員会において、第62期活動報告並びに提言を行った。

女性協議会は2016年10月に発足。「成長」「活躍」「情報共有」などの6項目を目的として、女性(特に一般職)が働きやすく活躍できる職場環境づくりに向けて積極的に活動を行っている。

同日は、女性協議会の下千鶴代表と後藤円副代表が出席。今期は▽職群▽社員から見た会社の魅力向上▽介護制度▽意見交換会▽女性活躍の場―の5つの項目について議論・検討を行った。

このうち、今期は全社員を対象に、職群の認識に関する現状確認を目的にアンケートを実施した結果、基幹職と一般職の違いである顧客対応の有無について「知っている」は7割を超えた一方で、「実際にその通り業務をしている」は2割だったことを踏まえ、「一般職の業務区分を定期的に周知してほしい。まだまだ

一般職は補助職と思う人がいる。そうではないことを浸透させてほしい」と提言した。

自社の介護制度については、今期は疑問点を確認し、「介護に関する相談窓口は当然ながら、各種相談窓口の周知を定期的に行ってほしい」と要請。会社の魅力向上に関しては、やりがいのある職場・共同意識のある職場について議論し、「コミ

ュニケーション等が課題に上がったことから、女性活躍の場の検討と合わせて、来期は「女性活躍とは何か」をテーマとして議論を行う予定とした。

このほか、シュレッダーやお茶当番などの雑務の負担を軽減するための業務改善も要望した。それに対して、西原秀幸社長は「今回の提言内容を配慮していく。来期



役員会で提言する女性協議会の代表㊦

以降、女性管理職をこれまで以上に増やしていきたいと考えており、その育成に向けた各種研修への積極的な参加を促してほしい」と協力を呼びかけるとともに、「女性活躍を考えた時に、特にCSEのブランド醸成や人材獲得という面で女性の力が大きな影響を与える。来期はぜひ、その検討もお願いしたい」と、今後の女性協議会活動に期待を寄せた。また、雑務については「すでに一部部署では取り組んでおり、来期には全社統一ルールをつくりたい」と約束した。